

女性委員会 学習会 〈参加者 26 名〉

日時 : 令和元年 6 月 8 日 (土)

場所 : 秋田市パーティーギャラリー IYATAKA

□ 概要

日本建築士連合会における「福祉まちづくり」部会の活動において、連合会の取組みに加え、各県の先駆的な取り組みについて報告。高齢化が進む秋田県においても「福祉まちづくり部会」の活動をスタートさせるべく、令和元年 5 月 19 日 (日) 開催した「福祉まちづくりキックオフミーティング」の内容について報告。

- ・高齢社会の住環境について都市部の現状と地方・農村部の住環境課題と、その課題解決に住宅改修における「多職種連携」が不可欠であり、各地域において「福まち部会」の活動始まる。
- ・秋田県もようやく始動。今年度は補助事業にも参画を予定中。

□ 今後の活動について

- ・「福まち部会」への参画を促し、会員相互の早急なスキルアップと多職種・団体との協議優先の課題。

(参考) 福祉まちづくり部会 キックオフミーティング 〈参加者 10 名〉

日時 : 令和元年 5 月 19 日 (日)

場所 : 秋田市 にぎわい交流館 AU 研修室

□ 概要

秋田県における高齢化の現状と、高齢者を取り囲む住環境の現状と課題についての問題提起から、日本建築士連合会における「福祉まちづくり」部会の活動において、連合会の取組みに加え、各県の先駆的な取り組みについて報告。

□ 情報提供

「高齢社会の住環境について*都市と地方の課題を掘り起こす」

GS : 東京大学, 高齢社会総合研究機構 特任教授 西野 亜希子氏

- ・住宅団地における「最後まで自宅に住み続けられる住まい」の研究について情報提供。
- ・地域の居場所づくりの取組みの中で課題を掘り起こし、住まい手は自分らしい生活の維持を望んでいること。本人がそのための課題を意識していることと、認識できていないが動作観察で捉えたものがあった。
- ・課題解決には当事者に係る多職種連携が必要であり、その連携方法、職種、ツール等をあげ、現在も研究活動は続く。

□ 参加者の声から

- ・介護程度は変化する→住環境も変化する必要がある。
- ・建築士も医療・福祉の勉強をすべき…etc.

□ 今後の進め方

- ・今回の参加者の皆さんから、今後「福まち部会」活動に参加希望を得られたことから、実践経験のある会員もいるので、実践発表を含め医療・福祉に関する研修の企画等進める予定とする。



「福祉まちづくり部会キックオフミーティング」報告



交流会にて会長と意見交換



ミーティング風景



西野亜希子氏



栢市 農研学会団地

レジュメより「住み替え双六」